



～女の子が触手に気持ちよくされちゃう話～
突然異世界へ転移した " つぼみ " ちゃん。
目が覚めると、そこは♥♥♥な世界でした。



「ん…」

(いつの間にか眠ってたみたい…)



「えっ？　なんで私裸なの！？」



「目が覚めたようだな」

「誰！？」

「私はこの世界を支配する魔神だ」



「魔神？ …私はどうなったの？」

「お前は私の世界に転移したのだ」



「転移？ …私はこれからどうなるの？」

「異世界転移というやつだ、だが条件を
満たせば元の世界に戻ることができる」



「条件？ …何をしたらいいの？」

「条件は、この世界のエネルギー生成のため
" 性的な気持ちよさを味わうこと " だ」



「！」

「性的な気持ちよさって…恥ずかしいよお」

「大丈夫だ、この世界にはお前しかいない」



「お前の姿は誰にも見られないから安心しろ」

「そんなこと言われたって…」

「この世界にはお前の快楽が必要なのだ」



「そんなあ～」

「埒が明かないな…この世界は私の意のまま
操ることができる、お前の体を操作するぞ」



「えっ！？ ちょっと待って！」

「待たん…これで体の自由は効かないだろう」

「！…体が動かせない…なんか変だよお」



「あっ…変な気分になってきちゃった…」

「快感を少しずつ増幅させてやろう」

「ああ…何もしてないのにおまんこが…」



「いい感じになってきたようだな」

「ああ…感じる…気持ちいいよお♥」

「いいぞ、早速エネルギーが生成されている」



「膣が開いてきたな」

「気持ちいいの止まらない！ ああ…♡」

「エネルギーがどんどん生成されているぞ」



「膣がヒクヒク動いているぞ」

「ああ♡ だめっ♡ イキそう♡ ああっ♡」

「エネルギーが急激に増幅し始めたぞ！」



「おお、エネルギー生成が最高潮だ！」

「ああ♡ イッ♡ イクううう♡♡♡♡♡」

「絶頂したな、潮が吹いたぞ」



「ああ♥ あっ♥ イクの止まらない♥♥」

「いいぞ、快樂エネルギーを放出させろ」

「ああん♥ んんっ♥ いいっ♥♥♥」



「余韻が抜けないうるだな」

「はぁ…はぁ…あぁ♡ まだ気持ちいい♡」

「絶頂後もエネルギーが増え続けているぞ」



「次は私の分身を送ろう」

「えっ？ 分身？」

「そうだ、もっと快感のレベルを上げるぞ」



「えっ？ なにこれ？」

「私の分身だ、人間の姿とは限らんだろう？」



「ええええっ！？ 体に巻き付いてくる！」

「触手だからな、人間ではできないことも
これなら可能になる」



「あぁっ…こんなの恥ずかしい…」

「まんことアナルがヒクヒクしているぞ」

「いやぁ…見ないでえ…」



「あぁっ…おまんこ広げないでえ…」

「感じているな、乳首が勃ってきたぞ」

「言わないで…恥ずかしい…」



「あぁっ…入ってきた…」

「中はヌルヌルしているぞ」

「あぁん…んっ…あっ♡ あぁあ♡♡」



「あん♥ あっ♥ あっ♥ ああっ♥」

「愛液が溢れてきたぞ」

「言わないでえ♥ ああ♥ 気持ちいい♥」



「あぁっ 恥ずかしいことさせないで」

「羞恥心はエネルギーを増幅させるようだ」

「あぁ…動かないでえ…♡ あん♡」



あーっ♡♡
あーっ♡♡

うっ...♡♡♡

いっ♡♡
いっ♡♡
いっ♡♡
いっ♡♡

「あぁっ♡ あっ♡ んっ♡ いいっ♡♡」
「エネルギーが込み上げてくる」
「気持ちいい♡ だめっ♡ イッちゃう♡♡」



「あっ♡ もうだめっ♡♡ ああ♡♡♡♡」

「エネルギーが放出する！」

「あああああああ♡♡♡♡♡♡」





「あん♡ はぁ♡ はぁ♡」

「精液が溢れ出してきたな」

「中に出したら赤ちゃんできちゃうよお」



「望まないなら妊娠しないようにしてやる」

「そんなこと…」

「この世界は私の意のままだからな」



「第2ラウンドだ」

「あっ♡ おまんこ擦れて気持ちいい♡」

「いいぞ、少し素直になったではないか」